ご自由にお持ち帰りください。

生涯学習 とっとり

鳥取県教育委員会発行
2016.7 文月
165

鳥取県内の生涯学習講座が満載！

ページ
1 特集
「三徳山行者太鼓」は地域の宝！
三徳山行者太鼓保存会　えん太
3 農産物加工グループ「マドンナ隊」
4 とっとり県民カレッジ連携
生涯学習講座情報（7・8月）
26 連携講座 おすすめピックアップ
27 鳥取県立生涯学習センター（お知らせ）
28 「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」
29 「山の日」制定記念イベント
託児で来（らい）ぶらり（鳥取県立図書館）
30 保護者同士の学び・仲間づくりを応援します！
31 鳥取県立博物館　企画展
宇宙への挑戦～未知への扉をひらくとき～

『切り絵シリーズ』城下町しかのぶらり蓮ウォーク（鹿野町）

毎年７月に開催される蓮ウォークでは、約 130 種類もの世界の蓮が町内各家の軒先で美を競う。
のんびり歩いてみるのもいい。

絵・文：紙原 四郎 氏

「三徳山行者太鼓」は地域の宝！

三徳山行者太鼓保存会 えん太

「三徳山行者太鼓」という伝統文化の継承をしながらも、和太鼓の魅力を広めるため、新たな取り組みにも挑戦中！その活動が地域づくりにつながっています。

途絶えていた「三徳山行者太鼓」が復活！

平成27年4月、「六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～」として、日本遺産に認定された三徳山と三朝温泉。その中でも一番の魅力は、断崖絶壁の岩窟に投げ入れられたかのように建立された「三徳山三佛寺投入堂」。ここ三徳山には、昔、僧兵「三徳行者」が多くおり、当時から伝わる勇壮な「三徳山行者太鼓」がありましたが、いつのころからか伝承する人がいなくなってしまいました。

平成18年には、100年に一度の記念すべき祭典「三徳山開山1300年祭」が行われました。この祭典に向けて、前年から町をあげて準備が進められました。その中で、昭和31年以来途絶えていた三徳山の伝統行事「御幸行列」とその行事の神事で奉納する行者太鼓復活への取り組みが始まりました。

行者太鼓の復活といっても、文献は残っているものの、太鼓や楽譜等はなく、誰も記憶に留めている人もいませんでした。そこで、そのころ和太鼓の活動をしていた山内有二さんに依頼し、山内さんは同世代の仲間10人に声を掛けて、平成17年に「三徳山行者太鼓　えん太」（以下「えん太」）を結成しました。メンバーは和太鼓を叩くのが初めて。楽譜がないので、京都で太鼓の活動をしていた山内さんのお兄さんが作曲し、叩き方は山内さんが指導して、新しい行者太鼓が誕生しました。

平成18年4月の「御幸行列」当日、神事には昔の面影を偲ぶ修験道行者姿に扮してのぞみました。観客は、修験道行者が法螺貝や笛を吹き、太鼓を力強く打ち鳴らす姿に魅了され、遠い昔に思いを馳せながら聴き入っていました。まさに「三徳山行者太鼓」復活の瞬間でした。

伝統を大切に守り、新たな挑戦も

あれから10年、「えん太」は行者太鼓を今も大切に継承しています。一方、和太鼓の魅力を広めるため、新しいスタイルにも挑戦中。メンバーはそれぞれ仕事をしながら、三朝町の郷土芸能で観光客を温かく迎えるために、三朝温泉観光案内所で開催される「あったか座」で定期的に演奏しています。また、温泉街の旅館や町内外のイベントでも演奏し、和太鼓の魅力を広めています。

平成21年には、三朝町と交流促進協定を締結している台湾の石岡郷を表敬訪問し、台中ランタンフェスティバルで太鼓を演奏しました。また、平成24年にも、台湾台中市で開催されたまんが王国とっとりフェスタにメンバー8人が派遣され、4日間にわたり演奏を披露し、鳥取県の魅力を発信しました。日本文化独特の透き通った笛の音や勇壮に響き渡る和太鼓の迫力に、終始感動の拍手が送られていました。

現在、メンバーは、三朝町でまちづくりの中心的な役割を担う世代。仕事をしながら観光協会や商工会青年部、旅館組合にも属し、ＰＴＡ活動等の役員も兼任している人がほとんどで、練習時間もなかなか取れないとのこと。そのような中、「私たちは、できる範囲で無理なく、ゆる～く、えん太の活動を続けていきたい」と語る代表の山内さん。地域活性化のためにと大上段に構えず、自然体で活動することが、やっと復活させた「行者太鼓」を長く伝承するコツなのかもしれません。

伝統文化を継承し、新たな和太鼓の世界やつながりを模索している「えん太」。「今度、地元の小学校に行って行者太鼓を披露するんですよ。子どもたちにも伝えたい！後継者も欲しいですね」とも･･･。

数年前から、三徳山世界遺産登録運動推進協議会が中心となり、世界遺産登録を目指して運動が進んでいる。いつの日か「三徳山行者太鼓」が世界にとどろく日がくるのを願わずにはいられません。

三徳山三佛寺の米田住職に聞く
「三徳山行者太鼓のいわれ」

三徳山三佛寺は、慶雲３年（706）、今から1310年前に役行者（えんのぎょうじゃ）神変大菩薩（修験道の開祖）により開かれた天台修験道の修行の道場です。平安時代には堂舎38宇、寺3,000軒、3,000石を領す大きな権力と経済力を得ていました。

そして、僧兵（寺院が自衛のためにおいた武装をしたお坊さんのこと）を増やし、軍事力を強め、勢力・寺領を拡大していきました。三徳山の僧兵は、「三徳行者」又は「美徳法師」と呼ばれ、3,000人もいました。当時は大山寺の「僧兵」と三徳山の「行者」との争いに戦意を高揚するため、太鼓を打ち鳴らし法螺貝をふきました。また、争いにおいて命を失った僧兵・行者追悼のために太鼓を打ち鳴らし祈ったといわれています。

大山「僧兵太鼓」は大山寺僧兵の姿で太鼓と法螺貝そして鑿子（けいす）という鐘を鳴らすのが特徴で、三徳山「行者太鼓」は修験道行者姿で太鼓と法螺貝・横笛が特徴です。

現在は、「三徳山行者太鼓保存会 えん太」のみなさんがそれらを踏襲し守っていただいています。

和太鼓を習得し、「えん太」の指導者に

代表　山内（やまうち）　有二（ゆうじ）さん

1300年祭で行者太鼓をぜひ演奏してほしいと、三徳山の住職から依頼があり、平成17年に「えん太」を立ち上げました。「えん太」という名前には、「エンターテイメント」、「えんたこく」、「役行者の叩く太鼓」という３つの意味が込められています。「えんたこく」は方言で、「地べたに座る」という意味があり、お客さんに太鼓を聴いてもらい一休みしていってほしいという想いを込めて付けました。

私は、設立当初から、会の代表者及び指導者として関わっています。現在、メンバーは、三朝町の在住・在勤者。男性４人、女性６人。職業もさまざまで個性豊か。全員、和太鼓の経験は全くなく、初心者からのスタートでした。バチの握り方から太鼓の叩き方まで一つひとつ教え、楽譜が読めない人には「ドンドコドーン」と言って教えました。

太鼓は心一つにしないとすぐバラバラになってしまいます。日によってぴったり合うときもあれば、全くうまくいかない日もあり、難しいところです。これまでで一番演奏がピタっと合ったのは、台湾で演奏した時です。台湾訪問の３か月前からずっとストイックに練習し、台湾では２日間で８公演もしたので、みんな体のキレが最高でしたね。あの時の演奏はとても印象に残っています。現地では、台湾の太鼓団の方たちとも交流を深めることができ、貴重な体験となりました。

今後も「三徳山行者太鼓」を継承するとともに、和太鼓の魅力も広めていきたいですね。

喜んでいただけることが活動の原動力

メンバー　相澤（あいざわ）　涼太（りょうた）さん

私は、昔からドラムをしていましたが、和太鼓は全く未経験者でした。友人から誘われ、「えん太」に入りました。名古屋で就職していましたが、地元に帰ってくることになり、久しぶりに昔の仲間と会って、みんなと一緒に楽しく活動がしたいと思い始めました。

今では「あったか座」に出演するようになり、少しは観光の役にもたっているのかなと感じますし、地元のイベントに呼ばれて、「三徳山行者太鼓のグループはいろんなところで演奏しているみたいだね」という話を聞くと、自分たちの活動が地域のためにもなっているのかなと思いうれしいです。

メンバーは、いろいろな地域活動をしていて忙しいので、練習もなかなか大変ですが、皆さんに喜んでいただけることが、活動を続ける原動力になっています。

三朝では、活性化のためにいろんな取り組みがされています。地域の総合力で三朝を盛り上げているのだと思っています。えん太もその一助になっているのは、とてもうれしいことですね。

自らも和太鼓を演奏　三朝の観光につなげたい

メンバー　山口智栄子（やまぐちちえこ）さん

小学校の頃、日本舞踊を習っていたこともあり、子どものころから「和」に関心がありました。中学生の頃、三朝町の郷土芸能である「白狼（はくろう）太鼓」を初めて観た時、とても心を動かされたのを覚えています。そのころから「太鼓ってかっこいい！自分も叩けるようになりたい！」と思うようになりました。

県外に出ていましたが、三朝町に帰ってきて、三朝温泉観光協会に勤めています。「あったか座」は、観光協会と三朝温泉旅館協同組合とが連携して運営をしています。身近で「えん太」が演奏する姿を観て、「自分もメンバーになって演奏したい」と思い、入会しました。

仕事をしながらの活動なので、演奏前には追い込まれて自宅で練習することもありますが、メンバーとして活動を続けることで、三朝の観光にも役立てたいと思っています。和太鼓は、体力勝負。練習も大変ですが、全身運動なので、健康面にも役立っていますね。

台湾台中市で、まんが王国鳥取県をPR（平成24年）

地域を盛り上げたい！

農産物加工グループ『マドンナ隊』

～常に学び、女性の視点を活かした加工品を開発～

寄稿：マドンナ隊　代表　谷口（たにぐち） 千代江（ちよえ） さん

農家の女性６人で結成

中山間地域である鳥取市河原町小河内（おごうち）では、宮内庁のお田植え式にも使われる最高品種のもち米「満月もち」を栽培しています。地域の人たちで、「満月倶楽部」を結成し、約 10 年前から杵つき餅のイベント販売などの活動を続けています。

そのような活動や畑仕事だけでなく、ほかにも何かできることはないかと漠然と思っていたところ、平成 24 年に鳥取市中山間地域人材養成事業「ふるさと元気塾」（以下、「元気塾」）の研修があるので参加してみないかと声をかけてもらい、地域の女性５名で参加しました。研修を重ね、参加者と交流していくうちに、他団体の活動に刺激を受けて、「小河内の産物を活用して、特産品を作り、小河内の魅力を伝えたい！」と強く思うようになりました。この頃「満月倶楽部」での取り組みの中には、特産品の加工部がなかったため、平成 25 年１月５日に女性有志６名で「小河内マドンナ隊」を結成しました。

試行錯誤して「やわらか姫もち」を開発

結成当初は、このもち米でかき餅を製造・販売していましたが、かき餅は冬場がメインなので、年間をとおして販売できる加工品の開発が必要でした。どうしたら餅が柔らかくなるのかインターネットで調べたり、境港市にある鳥取県産業技術センター食品開発研究所を訪問して、技術的なアドバイスを受けたりしました。また、道の駅清流茶屋かわはらで店頭販売し、お客様の声を直接聞くなどして改良を重ねてきました。野菜や果物の乾燥加工技術も学び、自分たちが栽培したものを乾燥加工して色づけをしました。何度も失敗しましたが、遂に、６名のアイデアと向上心により、平成 26 年夏、食感も良く、そのまま食べられ、冷蔵庫に入れても固くならないカラフルな「やわらか姫もち」が誕生しました。正真正銘 100 %小河内産です！

自分たちの加工品をもっと良くしたい！

姫もちのほかにも星やハート型のかき餅・赤飯・山菜おこわ・じげ弁当なども作っていますが、加工品の開発で困った時には元気塾の講師に相談に乗ってもらっています。講師からの温かい励ましの言葉や先を見通した適切な助言のお陰でここまで来ることができたと思っています。

平成 26 年には、一般社団法人鳥取県物産協会主催の商品クリニックにも参加しました。その時に批評いただき、少しずつ改良を重ね、質のいいものができてきたように思います。

私たちには、常に良いものを作りたいという想いがあります。それを実現するためには学ぶことが必要ですし、評価していただくことも大切です。いろいろな人とつながりながら、女性の視点を生かして皆さんに喜んでいただけるものを作っていきたいと思います。

地域に根差し、応援していただける存在に！

加工品などは、近くの西郷地区の敬老会等でも利用していただき、好評です。河原と岩美の道の駅など６ヶ所で常時販売している他、大阪や神戸のマルシェでもイベント時に販売しています。

現在、主力商品の「やわらか姫もち」のブランド化を図るため、「食のみやこ鳥取県」特産品コンクール（※１）に応募し、鳥取県ふるさと認証食品（※２）の認証にも挑戦中です。

今後は、メンバーを増やし、活動を継続していきたいと思っています。このような活動をとおして、「マドンナ隊」が地域に根差し、応援していただける存在になるようがんばります。

イベント販売の様子

※１「食のみやこ鳥取県」特産品コンクールとは
鳥取県産の農林水産物を主原料とした加工食品等の中から優れた新商品を表彰・ＰＲするものです。

「食のみやこ鳥取県」特産品コンクール　検索

※２「鳥取県ふるさと認証食品」とは
認証食品には認証マーク（Ｅマーク）を貼ることで、他商品と差別化することができます。認証には、鳥取県内の工場で製造され、原則として食品添加物を使用していないなどの条件が必要です。

「鳥取県ふるさと認証食品」　検索